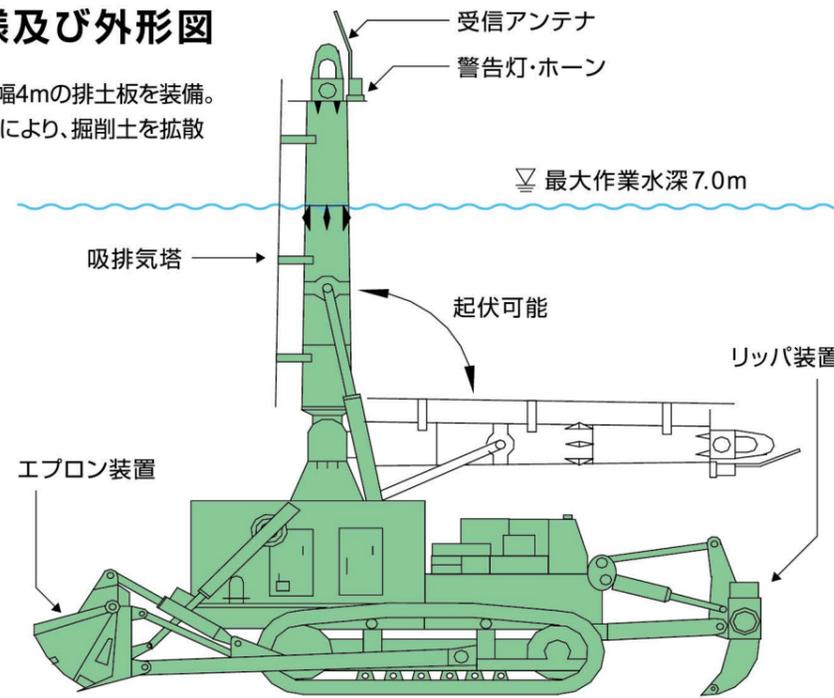


## 水陸両用ブルドーザ仕様及び外形図

機械重量は43.5t、全長及び全高は約10mで幅4mの排土板を装備。排土板前面のエプロン装置(平積み3.36m<sup>3</sup>)により、掘削土を拡散することなく水中掘削押土が可能。

### D155W-1 仕様一覧

重量	陸上	43,500kg
	水中	27,900kg
最高速度	前進	6.5km/h
	後進	7.7km/h
最小旋回半径		3.8m
ディーゼルエンジン		コマツS6D155-74J 19,260cc



## 様々な装置



エプロン装置

幅4m、平積み3.36m<sup>3</sup>の大型排土板エプロン装置により掘削土を拡散することなく水中掘削押土が可能



リッパ装置

車体後部のリッパ装置により、地山弾性波速度2,100m/sec程度までの岩盤を水中で破砕可能



クレーン装置

リッパ装置を取り外しクレーン装置を取り付け可能(定格荷重最大10t)

## その他水陸両用建設機械



水陸両用クローラダンプ

掘削土・ブロック等の水中運搬が可能(水深1.4mまで)

水陸両用バックホウ

河床・海底の水中掘削・床付け作業や揚重作業が可能(水深1.5mまで)

## 詳細パンフレット

水陸両用ブルドーザの詳細パンフレットはこちら



## 水陸両用ブルドーザ特設ページ

水陸両用ブルドーザの特設ページはこちら



# 水陸両用ブルドーザ

Amphibious bulldozer

水深7mまでの浅水域で威力を発揮

NETIS 登録

ICT施工対応の水陸両用ブルドーザ工法

登録番号: QS-220011-A



スイブルくん

©こもりまこと

無線遠隔操縦式

# 水陸両用ブルドーザ

水陸両用ブルドーザは、水深7mまでの浅水域を作業領域とする無線遠隔操縦式の水陸両用建設機械です。国内では当社が保有する5台のみが稼働しています。河道掘削をはじめ、ダム堆砂除去、港湾、漁港、漁場の整備維持工事など、50年で1,200件の信頼の実績を誇ります。

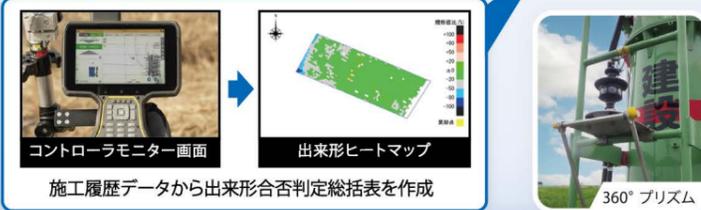
## 特徴

### マシンガイダンス装備の遠隔操縦

オペレーターは搭乗せず、陸上から無線による遠隔操縦をすることでオペレーターの安全を確保します。

360°プリズムを取り付け、自動追尾型トータルステーションで位置を測位することで、施工状況をリアルタイムにコントロールモニターに表示・記録することを可能にしました。

2022年8月NETIS登録  
QS-220011-A



施工履歴データから出来形可否判定総括表を作成

### 最大施工水深7m

作業船や陸上機械での作業が困難な水深7mまでの浅水域で威力を発揮します。



### 余掘が少なく、経済的

海底・河床を走行し排土板で面的に仕上げることで掘削精度が高く、余掘りも少なく経済的です。

余掘厚 (砂質土・レキ質土)	法面部	底面部
水陸両用ブルドーザ	50cm	20cm
クラブ浚渫船	400cm	50cm
バックホウ浚渫船	200cm	50cm
ポンプ浚渫船	15cm~100cm	20cm~100cm



## 国土強靱化に貢献

河道掘削、ダム堆砂掘削、港湾・漁港の浚渫など、政府が推進している国土強靱化、流域治水プロジェクトに貢献します。



## 全国各地の浅水域で活躍

1971年にD155W-1型開発1号機を導入し、現在に至るまで全国各地で活躍しています。



## 365日 通年施工可能

増水時は安全な場所へ自走により迅速に退避できるため、通年施工が可能です。

## 施工事例

### 只見川落橋回収工事(福島県)

2011年新潟・福島豪雨災害で落橋した西部橋を標準型、バックホウ搭載型およびクレーン装着型の3台の水陸両用ブルドーザを駆使し、回収工事を実施



### 庄内川河道掘削工事(愛知県)

名古屋市中心部を流れる庄内川の洪水時の流下断面を確保して効率的に河川水位を低下させるため、H12年より継続的に実施



### みやざき臨海公園ビーチ浚渫工事(宮崎県)

高等の影響で過剰に砂が堆積し、ビーチの機能が低下。水陸両用ブルドーザを投入し、海水浴ができるようにH30年よりビーチの土砂を掘削し、ビーチ特有の勾配に造成



### 小本川河道掘削工事(岩手県)

河川の流下能力を確保する目的で、河道断面を拡げる河道掘削工事をICT施工対応の水陸両用ブルドーザ工法で実施



### 下久保ダム堆砂除去工事(群馬県・埼玉県)

ダム貯水容量の確保のため、堆積土の水中掘削除去を実施  
水陸両用バックホウや水陸両用クローラダンプも導入し、出水期での施工を行った



### 矢作ダム堆砂除去工事(愛知県・岐阜県)

近年の台風や集中豪雨等の洪水対策として、ダム貯水容量確保のため堆積土の除去を実施。陸上機械や作業船が施工できない広い範囲の施工を行った

